

RJE3

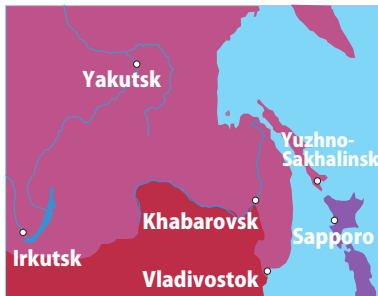
EAST RUSSIA-JAPAN
EXPERT EDUCATION PROGRAM

NEWS LETTER

RJE3 基礎科目の開講 2015年8月

本年度から本格的にスタートする「基礎科目」が8月に開講し、ロシア側学生25名、北大生17名の計42名が参加しました。

平成26年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された「極東・北極圏の持続可能な環境・文化・開発を牽引する専門家教育プログラム（通称：RJE3プログラム）」では、北海道大学と、北東連邦大学（ヤクーツク）・イルクーツク国立大学（イルクーツク）・太平洋国立大学（ハバロフスク）・極東連邦大学（ウラジオストク）・サハリン国立大学（ユジノサハリンスク）が協働し、極東・北極圏において活躍する専門家を育成するための国際連携教育システムの構築を目指しています。



極東ロシア5協定校と北大の位置関係

本プログラムでは、「準備科目」「基礎科目」「専門科目」「発展科目」の4段階の教育カリキュラムにより実施しています。その中でも特に「基礎科目」は日露のRJE3参加学生すべてが北大に集まり、極東・北極圏の地域的課題について分野横断的に学ぶことができる唯一の機会として重要視しています。「基礎科目」は講義による「概論」（科目名「RJE3概論」2単位）とフィールドワークによる「実習」（科目名「RJE3特別演習」2単位）で構成されており、本学生は大学院共通科目として単位付与され、ロシア側学生は各大学で単位認定されます。「概論」と「実習」を共に修了した日露学生37名には、日露教員の共同評価による修了証が授与されました。

概論 —「RJE3概論」— 日露教員による分野横断的な共同講義

講義は、8月24日の全体のオリエンテーションとウェルカム・パーティーを経て、翌日25日から31日までの日曜日を挟み6日間で開講されました。

講義テーマは、「歴史と文化」「自然環境」「地域開発」「現在と未来（政治・経済）」の4つに分かれて、日露教員計19名により実施されました。また、29日には、小樽市での「歴史的建築物の保存・再生」と平取町での「アイヌ文化体験」による2つの選択型エクササイズもおこなわれました。最終日31日には、日露学生の混成グループのプレゼンテーションにより、分野横断的な講義で学んだ成果を発表しました。



【概論】日露学生によるプレゼンテーション



【概論】日露学生のグループディスカッション

実習 —「RJE3特別演習」— ロシアと北海道で実施したフィールド実習

フィールド実習は、ロシア・ヤクーツクの環境観測実習（担当：環境科学院・杉本敦子教授）が8月4日から14日までの11日間、北海道礼文島の考古学・人類学実習による国際フィールドスクール（担当：アイヌ・先住民研究センター・加藤博文教授）が16日から22日までの7日間、札幌・札幌周辺の寒冷地開発技術ワークショップ（担当：工学院・瀬戸口剛教授）が17日から22日・29日までの7日間という日程で開講しました。学生の専門性に合ったテーマ別の実習を提供することで座学では得られない実地での知識を高めることができました。



【実習】寒冷地開発技術実習
（恵庭市黄金ふれあいセンター）



【実習】考古学・人類学実習
（礼文島浜中2遺跡）



【実習】環境観察実習
（ロシア・ヤクーツク）

日露学生の長期派遣受入による RJE3 専門科目がスタート



8月の基礎科目を修了した日露学生10名が単位取得を伴う長期留学を目的とした「専門科目」に進みました。北大生1名がサハリン国立大学(ユジノサハリンスク)で9月から来年8月までの1年間の長期留学をはじめました。そして、ロシア側学生9名が北大で9月から来年3月までの6ヶ月間の長期留学をはじめました。

「専門科目」では、「基礎科目」により分野横断的な講義とフィールド実習で基礎力をつけた学生が留学先の特色ある科目を受講します。母校では習得できないような知識を留学先で得て、学生自身の研究活動につなげます。

ロシア側学生9名は、文学研究科に5名(そのうち2名がスラブ・ユーラシア研究センターで受入)、工学院に2名、環境科学院に2名が特別聴講生として所属し、10月から各部局で開講される科目を「専門科目」として受講します。



サステナブルキャンパス推進本部の講義

(上: プレゼン準備をするロシア側学生)

(下: 講師陣との集合写真)

10月の「専門科目」開講前に、サステナブルキャンパス推進本部の横山隆特任准教授と池上真紀コーディネーターが中心となり、長期留学するロシア側学生8名に対して特別講義が9月14日から16日の3日間実施されました。1,2日目は「サステナビリティ・

アセスメントを考える」をテーマに、池上講師の講義後、自分たちが住むあるいは住みたい町について学生自身が新しい評価基準を設定し、グループワークをおこないました。3日目は「エネルギーシステムツアー」を実施しました。実際に円山動物園へ赴き、札幌市次世代エネルギーパークとして環境に配慮した施設を見学しました。

ロシア協定校での RJE3 準備科目の開講 2015 年 9 月

北東連邦大学(ヤクーツク)と太平洋国立大学(ハバロフスク)において、「準備科目」が9月に開講されました。5月から6月にかけて既におこなわれた3協定校もあわせると、本年度はロシアの5協定校すべてで「準備科目」を開講することができました。ロシア開講の「準備科目」は、ロシア側学生を対象とし、極東・北極圏の地域的課題に関する講義のイントロダクションとして位置づけられており、次のステップである「基礎科目」へのスムーズな受講を目的としています。

9月の「準備科目」には環境科学院・杉本敦子教授と工学院・瀬戸口剛教授の2名が、14日に北東連邦大学、16日に太平洋国立大学で講義をおこないました。その中で、北大教員によるRJE3プログラムの説明やロシア側学生による8月の基礎科目受講の体験発表もおこなわれました。各大学では多くのロシア側学生が聴講し、RJE3プログラムへの関心や期待の高さを改めて現地で感じるすることができました。



環境・杉本教授によるプログラム説明
(北東連邦大学・ヤクーツク)



工学・瀬戸口教授の準備科目の講義
(北東連邦大学・ヤクーツク)



北東連邦大学の教員・学生との集合写真
(右から5,6番目: 瀬戸口教授・杉本教授)

お知らせ 一極東ロシアへの短期派遣学生の募集一

本年度末頃にロシアの協定校への北大生の短期派遣の実施を予定しています。募集人数は、次年度大学院入学希望の学部生を主に対象として15名程度となります。本プログラムからは往復航空券・宿泊費等が支給されます。詳細については、下記のRJE3セントラル・オフィスまでご連絡ください。

RJE3 プログラムニュースレター Vol. 1

発行: RJE3 プログラム セントラル・オフィス
北海道大学 国際本部 2F 国際連携課内

〒060-0815 北海道札幌市北区北15条西8丁目

電話: 011-706-8143 FAX: 011-706-8036

E-mail: RJE-3@oia.hokudai.ac.jp

URL: <http://rje3.oia.hokudai.ac.jp/>



「RJE3」の略称は、「East Russia-Japan Expert Education Program」の「R」と「J」、3つの「E」の頭文字を取ったものです。